



朝ドラに始末・才覚・算用が出てました

「ささか古い話になって恐縮ですが、昨年末に、読売新聞の記者さんからインタビュー受けました。

この記者さんは、人工衛星「まいど1号」打ち上げのときお世話になった方です。東京からわざわざカメラマンと二人で、大阪まで来てくれました。全国版やったから、観てくれた人も多いと思います。テーマは、相次ぐ企業のデータのごまかしについてです。

品質のええことで通ってたメイド・イン・ジャパンが、この一連の不祥事で信頼が落ちてしまうたら大変です。信用を築き上げるのは時間がかかりますが、落ちるのは、それこそ一瞬です。特に今はマスメディアが大きな影響力がありますから、大変です。

やっつしもうたことはしょうがないとして、しっかりと謝罪して、気分を引き締めて、原因を究明して、さらにはよりよい次に向かう、という心構えを示すことが必要や、と思います。製品の品質保持は何よりも大事やからね。

ウチも航空機の部品扱こうてるからわかります。なんといつても人命にかかわりますから、点検や検査はよりきびしゅうなります。そやけど、それを乗り越えるとき、企業として誇りを感じます。これ単なるお金の問題とは違うと思います。

大阪人のイメージは、ケチ、ガメツイ、ウルサイが全国的イメージかもしれない

たまたまNHKの朝ドラ「わろてんか」見てたら大阪商人の心得として「始末・才覚・算用」というのが出てました。米問屋のご寮さんである鈴木京香さんが、息子の嫁に家訓として教えるもんです。

とかく関西人、いや大阪人ですか。大阪人のイメージは、ケチ、ガメツイ、ウルサイなんっていうのが全国的なイメージかもしれません。この前も、大阪で電車に乗ってたら、東京から里帰りした女の子らしいのがいて「東京の人は京都にはええイメージもってるけど、大阪はうるさいし、カスや思うてる」てなことってました。

そうかもしれないなあ。東京の人は大阪に、偏見もってるかもしれない。

「いや、どっちもどっちです。青木さんやって、ときどき気色悪い標準語を使って、東京人をからかうやないですか。『だめだなあ。そんなお役所みたいなこと言って、東京の人って頭、固いんじゃないの』って」と東京のおっちゃん。

えっ、僕そんなこと言うてますかいな。気づかんかったなあ。

